

平成 27 年 5 月 28 日

報道関係者各位

国立大学法人 筑波大学  
津別町

## 津別町と筑波大学の連携による「津別町まちなか再生事業」のキックオフについて

国立大学法人筑波大学と津別町は、「津別町まちなか再生事業」に関する共同研究契約を、平成 27 年 4 月 16 日付けで締結し、そのキックオフとして、6 月 12 日(金)にシンポジウムを開催します。

### 経緯

津別町は人口約 5000 人の林業を中心とする町で、人口減少や中心市街地の衰退といった地域活力低下の課題を抱えています。平成 22 年 3 月に作成された「津別町第 5 次総合計画」について、5 年経過後のアンケート調査を策定委員に対して実施したところ、複合施設の整備・商店街形成・コンパクトシティ化など、中心市街地の活性化の対応不足が指摘され、さらなる再生事業への取り組みの必要性が明らかとなりました。

一方、筑波大学は、平成 10 年より、ラグビー部の合宿を津別町で行っており、教員・学生とも津別町役場および町民との交流を続けてきています。その中で、昨年、まちなか再生について道外大学との連携を模索していた津別町 佐藤多一町長より、体育系 中川昭教授(筑波大学ラグビー部長)への打診があり、まちづくりや地域再生研究の実績を有する、システム情報系 大澤義明教授を中心に、津別町との連携事業の可能性を検討してきました。

その結果、津別町と筑波大学は共同で調査研究事業を立案し、一般社団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)が助成するまちなか再生支援事業(大学連携型)に応募したところ、平成 27 年度助成事業として、道内で初めて採択されるに至りました。これに基づき、両者は平成 27 年度から共同研究契約を締結し、このたび本格的に活動を開始することとなりました。

### 「津別町まちなか再生事業」の概要と特徴

本事業では、連携先として敢えて道外大学を選びました。その理由には以下のことが挙げられます。

- ① 自発性(道内では見えにくい価値観の持ち込みによる「誇り」の確立)
- ② 多様性(ソトモノ・ワカモノ交流による多様な価値観の共有)
- ③ 継続性(グローバル時代に将来を担う世代の育成)

また、事業を実施するにあたり、「コンパクトシティ」と「人材育成」をキーワードとし、人口減少という課題の解決に向けて、ハード及びソフト両面において中長期視点で取り組みます。その基本的な考えは、次の 3 点です。

- ① 自立性(町民自ら考える仕組みの構築)
- ② 独自性(地域性を活かしたアイデア創発)
- ③ 持続性(一過性ではない本質的な地域づくり)

筑波大学はこれまで、多様な研究分野を保持しているという特性を活かし、都市計画、デザイン、医療、住民参加など多様な場面でまちづくり活動に参画してきました。特に、茨城県内において、土浦市、牛久市、常総市、大子町と包括協定、震災後には、北茨城市、高萩市、神栖市、潮来市、鹿嶋市と震災復興協定を結び、教員及び学生を交えて自治体支援活動を展開してきました。それらの経験を踏まえ、社会工学専攻の教員・学生を中心に、筑波大学ラグビー部の協力も得ながら、平成 27 年度から 3 年間、津別町の再生事業を支援いたします。

本事業は、消滅可能性都市をフィールドとした、地域再生の実証研究であり、同様の問題を抱える多くの地方自治体にとって有用な事例となるとともに、地域再生を進める上での様々な知見が得られることが期待されます。また、学内においては体育系とシステム情報系(社会工学)との異分野連携であること、津別町役場や小樽商科大学など北海道内に居住する、本学卒業生の参加・支援により実現したもので、筑波大学ならではの間口の広さ、規模の大きさという特徴的な活動としても位置付けられます。

#### キックオフシンポジウムについて

本事業を本格的に開始するにあたり、下記の通りキックオフシンポジウムを開催します。(別紙参照)

【日時】 平成 27 年 6 月 12 日(金) 18:30~21:00

【会場】 津別町中央公民館(北海道網走郡津別町字豊永 5-1)

【主催】 津別町・筑波大学

【後援】 北海道開発局・地域総合整備財団

#### 今後の予定

津別町では、本事業をともに推進していくための組織として、町民代表者 20 名で構成する「津別町まちなか再生協議会」を設置しました。今年度は、年間を通じて筑波大学より本協議会に対して、8 名の教員を講師として適宜派遣する他、夏休みを利用して高大連携・地元住民ワークショップなどを企画し、筑波大生 10 名をファシリテーターとして派遣します。これと並行して、8~9 月をめどに、小樽商科大学とも共同で大学ゼミ合宿及びスポーツ合宿の実証実験及び調査を実施します。今冬には全国から研究者が参加する合宿型研究会の実証実験を計画しています。これらの成果をもとに、1 月には、本年度の総括として、津別まちづくりシンポジウムを開催します。27 年度以降、ワカモノ・ソトモノ目線によるインフラ維持管理も含めた地方版総合戦略の策定支援にも取り組みます。

#### 問合わせ先

大澤 義明(おおさわ よしあき)  
筑波大学 システム情報系 教授

森井 研児(もりい けんじ)  
津別町役場 住民企画課 主幹

